



葉 山 町
令和 4 年 7 月 22 日
記 者 発 表

旧足立家別邸主屋の国登録有形文化財（建造物）への登録について

国の文化審議会(佐藤信会長)は、令和 4 年 7 月 22 日(金曜日)開催の同審議会文化財分科会の審議・議決を経て、新たに葉山町堀内牛ヶ谷 2019 番地にある旧足立家別邸主屋を含む 136 件の建造物を登録するよう文部科学大臣に答申しました。

旧足立家別邸主屋は、後日の官報告示を経て登録されます。町内の登録有形文化財(建造物)の登録件数は 7 件となる予定です。

なお、当件につきましては、国(文化庁)、神奈川県においても同時に発表がされます。

- (1) 名 称 旧足立家別邸主屋(きゅうあだちけべっていおもや)
- (2) 所在地 神奈川県三浦郡葉山町堀内牛ヶ谷 2019 番地
- (3) 所有者 個人
- (4) 年 代 昭和 8 年建設/令和 2 年改修
- (5) 概 要 (※下線は人物概要、用語解説あり)

旧足立家別邸主屋は、国登録有形文化財イエズス孝女会修道院旧館(旧東伏見宮葉山別邸)の敷地と隣接した山裾に所在する実業家足立正の旧別邸です。建物は現所有者の住宅のため、非公開となっております。

建物は、当時王子製紙取締役だった足立正の別邸として、早稲田大学大隈記念講堂などの設計に携わった建築家佐藤功一さとうこういちの設計により、昭和 8 年に建設されました。棟札から建設年が明確であり、また、佐藤の作品集にも掲載されるなど佐藤の作品としても貴重な住宅です。

外観はハーフティンバースタイルを採用し、玄関から東西に中廊下を配し、南側に居室群、北側に台所など置き、和室と洋室を混在させるなど当時の住宅にしばしばみられる形式を採用しています。また、繊維板トマテックスを内外仕上げ材に用いた乾式工法かんしきこうほうで建設されている点は、時代の要請を反映した貴重な建築です。

旧足立家別邸主屋は、国登録有形文化財の登録基準「造形の規範となっているもの」として評価されました。

〈参考〉

※人物概要	
足立正 (1883~1973)	施主の足立正は、戦前戦後にかけて王子製紙社長などを歴任した実業家。明治 38 年東京高等商業学校(現一橋大学)を卒業後、三井物産を経て王子製紙に入社し、昭和 17 年同社社長に就任、戦後は日本生産性本部会長、東京商工会議所、日本商工会議所会頭などを歴任した。
佐藤功一 (1878~1941)	設計者の佐藤功一は、戦前期に活躍した建築家であり教育者。明治 36 年東京帝大建築科卒業後、明治 43 年早稲田大学建築学科開設に貢献し翌年より教授を務め、その傍ら早稲田大学大隈記念講堂(重要文化財)や日比谷公会堂などの設計に携わ

	った。住宅作品は少ないが、日本女子大学で住居学を講じるなど住宅にも造詣の深い建築家だった。
※用語解説	
ハーフティンパースタイル	建物の外観において、柱などの建築部材が外側に露出した木造建築の様式。近代以降の欧米建築様式の導入過程の中で、建築の構造材を露出させるわが国の伝統建築と共通した様式としてとりわけ好まれた。
トマテックス	足立が赴任していた王子製紙苫小牧工場で開発された植物繊維板。当時経済性や工期短縮の観点などから乾式工法が注目を集めており、王子製紙のみでなく国内でも同等の製品の製造が開始されていた。
乾式工法	コンクリートや壁塗りといった水を使う代わりに、木質系繊維板などの工業化材料を用いた工法。

(6) 写真



①外観 南東面



②外観 南面



③内部 応接室



④内部 食堂

【問合せ】

葉山町教育委員会生涯学習課 山口

046-876-1111 (内線7233)

E-mail : manabi@hayama.kanagawa.jp